

授業科目(ナンバリング)	福祉と緩和ケア(NF607) (実践的教育科目)			担当教員	中村 龍文*・久田 貴幸*・大町 いづみ*・ 大磯 茂* (*実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	6年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ ラーニング の類型
<p>超高齢社会を迎えている我が国の社会問題の1つである介護問題に対し、医療・保健・福祉の連携の下、高齢期を迎えても地域の中で生活を営めるようなシステムが構築され、また、高齢期の特徴や代表的な疾患等の理解とそれへの支援方法が確立されつつある。本授業では、「人間尊重」に焦点を当てながら、介護にまつわる政策・制度や支援に関する動向を理解し、一専門職者として何ができるのかという問いに答えられるようになることをねらいとする。また、介護の現場でも遭遇することが多い緩和ケアについてその概要ならびに緩和薬物療法における注意点などを概説する。</p> <p>なお、このねらいを達成していくため、この授業はアクティブ・ラーニング類型②⑦に沿い、ポートフォリオを活用しながら、関心を抱きやすい事柄の紹介やディスカッション等を織り交ぜていく。</p> <p>【本学薬学部独自のアドバンスト科目】</p>							②⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	要介護者等の状況に配慮した服薬および生活全般の指導ならびに緩和ケアについて薬剤師の立場から説明することができる。				定期試験 レポート	20% 10%	
情報収集、 分析力	介護保険制度の内容や医療・保健・福祉の専門職との連携、緩和ケアの役割について文献等から知見を広め、今後の動向を推察することができる。				定期試験 レポート	10% 10%	
コミュニケーション力	自身の喪失体験を整理していきながらグリーフケアについて理解を深め、高齢者の気持ちに寄り添える自己を確立することができる。				授業への参加度	15%	
協働・課題解決力	臨床倫理の4分割法を使用したカンファレンスを通じて、グループ内での意見を集約し、プレゼンテーションすることができる。				授業への参加度	15%	
多様性理解力	高齢者の価値観が多様であることを理解し、薬剤師および将来的な介護支援専門員として適切な配慮をすることができる。また、緩和ケアの根幹にある全人的苦痛(トータルペイン)を理解し、他の職種と連携して適切な支援をすることができる。				定期試験 レポート	10% 10%	
出 席 合 計					受験要件 100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験：筆記試験の形式にて行い、持ち込みは不可とする。出題形式は五択、記述、論述のいずれも用いる予定である。詳しくは授業中に情報提供を行う。</p> <p>レポート：指定する課題に関するレポートの内容により評価する。詳しくは授業中に情報提供を行う。</p> <p>授業への参加度：授業態度やリフレクションカード、ポートフォリオによる課題への回答で評価を行う。</p> <p>フィードバック：授業への参加度に関する評価については、授業中に随時行っていく。</p>							
授業の概要							
<p>高齢化社会の進展とともに広がりつつある介護問題に対し、現在、介護保険制度や地域包括ケアシステムといった新たな社会制度・体制が導入されてきている。この授業では、ディスカッション等を交えながら、そうした変遷を見ていくとともに、加齢に伴う高齢者個人の変化やそれへの支援、緩和ケアについて学んでいく。なお、授業は医師として臨床に携わる中村と介護実践経験を持つ大町・久田、薬剤師の実務経験のある大磯ならびにゲストスピーカー(龍・江崎)によるオムニバス形式で行い、実践例を交えながら授業を進める。</p> <p>授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない(授業中に資料を配布する)</p> <p>参考書：新大学社会福祉・介護福祉講座(2012)『介護福祉総論』改訂版、第一法規(専門用語理解に活用)</p> <p>日本緩和医療薬学会・編(2013)『緩和医療薬学』、南江堂</p> <p>指定図書：社会福祉士養成講座編集委員会・編(2016)『高齢者に対する支援と介護保険制度』第5版、中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>薬剤師は、薬剤の管理、販売、指導といった薬学に関する専門職であるが、薬剤師として5年の実務経験を行うと、介護支援専門員(ケアマネジャー)として、介護保険制度に精通する専門職への受験資格を得ることができる。そのため、今後の介護問題を改善していく一専門職として高齢者全般に関わる支援について関心を持ち、授業に参加してほしい。また、各自で現在の介護問題に関する情報を得るようにしてほしい。さらに、臨床現場で緩和医療の現場に遭遇する機会は多い。薬剤師として知っておくべき緩和ケアの基礎知識をしっかりと学んでほしい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1	病院と施設の連携	医療管理を必要とする人の介護を視座として専門職として連携をとるために、自分自身に要求されていることは何かを考える。(久田)	復) 薬剤師として退院後の要介護者への対応を考える。	1062
2	介護技術の基本	高齢者の加齢現象も含めた特徴を理解し、介護技術の基礎となる知識を学ぶ。(久田)	復) 介護技術の基礎知識を確認する。	
3	倫理原則	臨床の場での倫理的ジレンマや課題について倫理原則を学び、4分割法での倫理的課題への対応を考える。(久田)	復) 臨床の現場でのジレンマや課題について考える。	
4	高齢期における喪失	高齢者の喪失体験や、グリーフケアについて学ぶ。(久田)	復) 喪失体験とグリーフケアについて整理する。	
5	高齢者の健康と高齢期に見られる代表的な疾患	高齢者の健康について、統計的・医学的に学ぶとともに高齢期に見られる代表的な疾患の病理について学ぶ。(中村)	復) 高齢者の健康・疾患について考察する。	
6	認知症ケアの必要性	認知症について学ぶ。認知症高齢者の生活や障害を理解する。また、認知症ケアの変遷や認知症の人への対応を学ぶ。(中村)	復) 認知症についてまとめる。	
7	医療と介護の連携にかかる政策と地域包括ケアシステム	現在の医療と介護の一体的な改革を概観し、医療・介護分野の政策の変化や地域包括ケアシステムの構築過程について学ぶ。(中村)	復) 医療と介護の一体的な改革の動向を整理する。	1062
8	介護の今日的課題と介護制度の動向	介護に関する社会の動向を知る。また、家族介護から社会全体で担う介護への流れの中で、介護に関する施策等の変遷も学ぶ。(大町)	復) 介護を取り巻く状況をまとめる。	
9	介護保険制度	介護保険制度の成り立ちや制度について学習する。介護保険を利用する立場で具体的に学んでいく。(大町)	復) 介護保険制度の内容をまとめる。	
10	介護保険制度におけるサービスの現状	フォーマル・インフォーマルサービスについて学ぶ。また、現在の介護保険制度のサービスの種類や内容について学ぶ。(大町)	復) 身近な介護サービスを確認する。	
11	介護保険制度におけるサービス展開	ケアマネジメントについて学ぶ。在宅で生活を維持して行くため、介護保険制度のサービス利用から考えていく。(大町)	復) 在宅サービス利用を考える。	
12	緩和ケア 1	薬剤師の視点から、緩和ケア(がん・非がん)全般に関して歴史や背景に触れながら学び、日本における現状について理解する。(大磯・龍)	復) 緩和ケアの定義、歴史および考え方を理解する。	1, 2, 4-7
13	緩和ケア 2	薬剤師は、薬物療法の専門家として患者の症状や治療計画を薬学的視点からアセスメントし、処方や対応策を立案する。病院や在宅での緩和ケアチームにおける薬剤師の役割と活動について学ぶ。(大磯・江崎)	復) 緩和ケアにおけるアセスメントの考え方、薬剤師の役割を理解する。	1-4
14	緩和ケア 3	緩和医療でよく使用される鎮痛、症状緩和、終末期のセデーション等の薬物療法を実際の症例を交えながら紹介し、その中で薬剤師として何を行うのかを考える。(大磯・龍)	復) 緩和ケアにおける鎮痛、症状緩和の薬物療法について理解する。	1-7
15	緩和ケア 4	療養場所(在宅、一般病院、ホスピス、施設など)や療養環境を考慮した薬物療法の必要性や医療用麻薬の管理・使用について学ぶ。(大磯・龍)	復) 緩和ケアにおける鎮痛、症状緩和の薬物療法について理解する。	1-3
16	定期試験			

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。